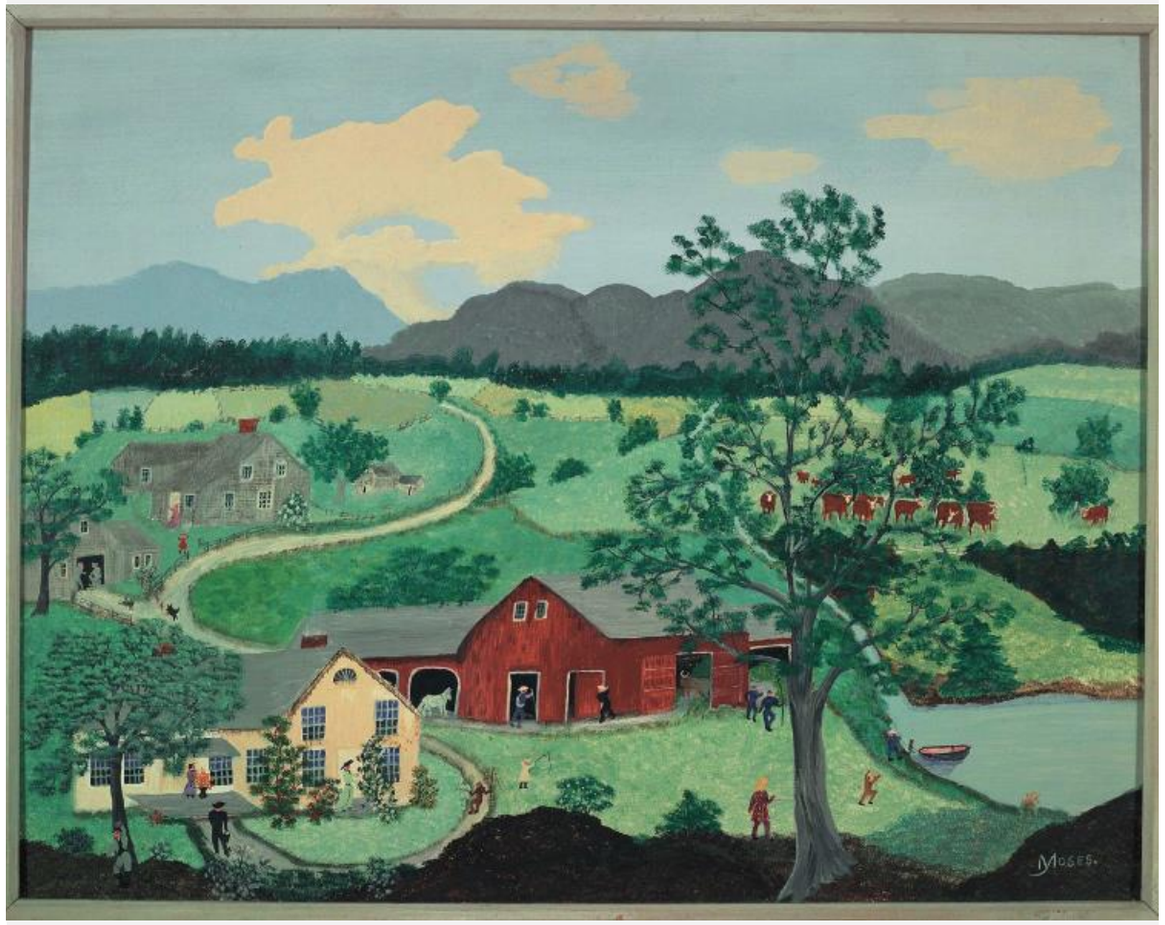
《望郷》

作　家　東郷青児
制作年　1959年
技　法　油彩・カンヴァス
サイズ　116.1cm×90.7cm

古代ギリシャの神殿のような遺跡の前にたたずむ女性。この作品は、洋画家・東郷青児の代表作です。長いまつ毛や細長い指先など、青児が描くロマンティックな女性の絵は「青児美人」と呼ばれて多くの人々に親しまれました。「青児美人」は、京都の「ソワレ」や吉祥寺「ボア」など全国各地の喫茶店に飾られたほか、「フランセ」や「自由ヶ丘モンブラン」など洋菓子店の包装紙でも知られています。
この作品の題名になっている「望郷」とは、遠くはなれた地で故郷に思いをはせる気持ちのことです。作品が描かれた昭和34年は、東京タワーが完成した翌年でした。この作品には、経済成長によって東京が大都市へ生まれ変わる時代に、消えてゆく町並みをなつかしむ気持ちがこめられているのかもしれません。

SOMPO美術館
Sompo Museum of Art



《さあ、ボートに乗りに行こう》

作　家　グランマ・モーゼス
制作年　1949年
技　法　油彩・板
サイズ　42.7cm×54.9cm

この絵の作者はグランマ・モーゼスという女性です。
本名をアンナ・メアリ・ロバートソン・モーゼスと言います。70歳を過ぎてから絵を描くようになり、注目を集めたことから、「モーゼスおばあちゃん」を意味する「グランマ・モーゼス」というニックネームで呼ばれました。グランマ・モーゼスは、1860年にアメリカ北東部にあるニューヨーク州のグリニッジに生まれ、27歳で結婚すると農業を営むようになります。農家の主婦として農業や酪農業、家事を行い、家族の面倒を見ることに生涯の大部分を費やしました。ちゃんと絵を習ったことはありませんでしたが、70歳を過ぎると毛糸を使った刺繍絵を制作し始め、その後、本格的に絵を描くようになりました。 1961年に101歳で亡くなる直前まで、穏やかな農園の暮らしや、少女時代の思い出を主題にして、温かみのある作品を描き続けました。グランマ・モーゼスの独自の世界感を表す作品は多くの人々に愛されています。

SOMPO美術館
Sompo Museum of Art